

## 家族・接触者検診について

### 私は結核ですが、他のみんなは元気です。どうして家族・接触者検診が必要ですか

結核は結核菌によってうつる病気です。しかし、多くの活動性の結核患者は弱い症状を示すだけなので、自分が結核であることを知らないままに他の人に結核菌をうつしていることがあります。結核菌の感染を受けやすいのは家族、友人、職場の同僚など、一日のうちの長い時間を一緒に過ごす人です。一人の結核患者が見つかったときには、この患者さんが他の人にうつしていないか、一緒に病気になっている人がいないかを調べる必要があります。このことで結核であることが見つかった人は、早く治療を開始することができ、障害が少なく、治療期間も短くて済みます。またどんどん他の人にうつしていくのを防ぐことができます。

### 誰が検診の対象になりますか

結核菌の感染を受けやすいのは一日のうちの長い時間を一緒に過ごす人ですから、家族、友人、職場の同僚などが検診の対象になります。

実際にどの人に検診を行うかは、患者の状態、接触の状況などから感染の危険の高い人を選んで、保健所長（医師）が決めます。（家族が中心になります。）

### 検診の時期と回数は

検診の時期と回数は、患者さんの排菌状況（感染性）によって異なります。

あなたの住所を担当する保健所から検診の時期が近づいたら、案内が送られてきます。

保健所で受ける検診は無料です。

### 患者さんの痰の検査で結核菌が出た場合

年齢、症状、接触状況などから感染危険度の高いと思われる家族や同じ職場の人については、2年間検診が必要となる場合があります。

それは、結核の感染を受けてから、6～18ヶ月で発病することが最も多いからです。

発病を早期に発見するため、定期的に検診を受けていただく必要があります。

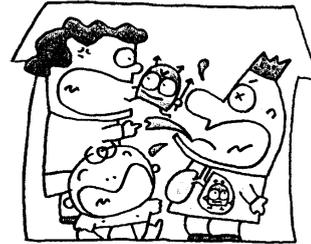
患者さんが肺以外の結核の場合や痰の検査で結核菌が出ていない場合

患者さんの治療開始から2か月以内に検診を行います。

家族や同僚が感染している可能性は低いので、この検診で異常がなければ以後の検診はありません。

検診が終わった後も、一般の方と同じように年1回健康診断を受けましょう。検診は職場、市役所、保健所などで受けられます。

また、咳や痰が2週間以上続いたときには、必ず胸のレントゲン検査や痰の検査を受けましょう。



### 家族・接触者検診の内容は何ですか

検診の内容は年齢によって異なります。

#### 18歳以上の人

- ・胸部のエックス線検査（レントゲン写真）：肺に何かの障害（病巣）がないかを調べます。
- ・喀痰検査（症状があるときのみ）：喀痰の中に結核菌がいるかどうかを調べます。
- ・29歳以下の人で、結核菌の感染の可能性のある人は、ツベルクリン反応をすることがあります。

#### 18歳未満（高校生以下）の人

- ・ツベルクリン反応：結核菌に感染しているかを調べます。しかしこれでは発病の有無はわかりません。BCG（ワクチン）を受けた人では判断が難しい場合があります。これまでのBCG（予防接種）やツベルクリン反応検査の結果が判定のために必要です。
- ・胸部のエックス線検査（レントゲン写真）：肺に何かの障害（病巣）がないかを調べます。
- ・喀痰検査（症状があるときのみ）：喀痰の中に結核菌がいるかどうかを調べます。

### 検診の結果どうなりますか

発病が認められた人は、医療機関へ相談し、患者として治療を受けることとなります。

発病はしていないが感染が強く疑われる場合、医療機関で予防のための治療（予防内服）が行われることがあります。